

昭和25年7月6日第三種郵便物認可

金圓交付万円前渡2,700

縣から返上せまる

財政破綻と町村は頭痛

縣下各市町
村に對する
二十一年度
分の平衡交
付金は昨報の如く縣富局より
交付見込み額を發表の結果
平市においては歳入豫算
算面に非常な余裕を生じた
がこれと反対に炭鉱地帶
または大工場の所在地等の町
村では暫定處置として前渡
しを受けた平衡交付金を返
還しなければならない事と
なつたので本年度における
豫算の運営上重大視される
に至つた。石城郡下における
還還を要する町村並に金額は
次の通りであつて、石城郡全
町村を通じての平衡交付金の
見込額は三千五十六万九千
円内々六十二万六千円で返還額
は二千六十六万九千円である
田人村の産業振興會は來る
廿二日廿三日の兩日同村公
民館で開催され、小名濱町
の圖書工作の展覽會を行つ
たのは本年三月であつたが
大竹知事初め縣部課長は工
場を原ノ町に建設せんとした
て小名濱町を輕視したが
如く見えたので町議會に立
経頂に達し、遂に大竹知事の
機会を掴み大竹知事の希望に
と最後の強調判決まで進
展した、之がため水野町に
依り調査を進める事になつ
たのは本年三月であつたが
めめたので、其の際の口
平市に於ける事に、然かも倉敷レ
ーと思想

以上の中の町村は鐵道税或
は平市よりは大陥る方町村會ではこれが對策に
以上の町村は鐵道税或は大陥る方町村會ではこれが對策に
營上動きの取れない苦境に
付金は昨報の如く縣富局より
交付見込み額を發表の結果
平市においては歳入豫算
算面に非常な余裕を生じた
がこれと反対に炭鉱地帶
または大工場の所在地等の町
村では暫定處置として前渡
しを受けた平衡交付金を返
還しなければならない事と
なつたので本年度における
豫算の運営上重大視される
に至つた。石城郡下における
還還を要する町村並に金額は
次の通りであつて、石城郡全
町村を通じての平衡交付金の
見込額は三千五十六万九千
円内々六十二万六千円で返還額
は二千六十六万九千円である
田人村の産業振興會は來る
廿二日廿三日の兩日同村公
民館で開催され、小名濱町
の圖書工作の展覽會を行つ
たのは本年三月であつたが
大竹知事初め縣部課長は工
場を原ノ町に建設せんとした
て小名濱町を輕視したが
如く見えたので町議會に立
経頂に達し、遂に大竹知事の
機会を掴み大竹知事の希望に
と最後の強調判決まで進
展した、之がため水野町に
依り調査を進める事になつ
たのは本年三月であつたが
めめたので、其の際の口
平市に於ける事に、然かも倉敷レ
ーと思想



社長
發行式
會社
編集行
電話(平)
大和田
福島
新報社
社
會社
編輯
電

本炭部新設
配達迅速
平市大町
電話二九九番

二、新株募集状況打合の件開催新聞記者打合話を開いたるるまき一五〇一一〇四
三、來る國會に提出審議せることになった
る信用組合改組「組合金庫法案」の内容研究の件
件は請負に關する問題だけに相當議論すると見られて居る
る組合金庫法案の内容研究の件

江名町第七金榮丸乗組員後
廢勇三は十六日午前一時
城作次郎(西)と口論し、殿
市長は福島より歸宅、十九
日箕輪大利校及び箕輪校
に開く「縣政開く」の會に出
席する

十八日午前十一時蓮沼會議
長は石城郡下車、翌日セメ
トロードにて開催された「縣
政開く」の會に出席する
る座談會と話す

以上に件案申事務所建築案
は請負に關する問題だけに
組合改組「組合金庫法案」の内
容研究の件は請負に關する問題だけに相
當議論すると見られて居る
る組合金庫法案の内容研究の件

江名町第七金榮丸乗組員後
廢勇三は十六日午前一時
城作次郎(西)と口論し、殿
市長は福島より歸宅、十九
日箕輪大利校及び箕輪校
に開く「縣政開く」の會に出
席する

十八日午前十一時蓮沼會議
長は石城郡下車、翌日セメ
トロードにて開催された「縣
政開く」の會に出席する
る座談會と話す

以上に件案申事務所建築案
は請負に關する問題だけに
組合改組「組合金庫法案」の内
容研究の件は請負に關する問題だけに相
當議論すると見られて居る
る組合金庫法案の内容研究の件

江名町第七金榮丸乗組員後
廢勇三は十六日午前一時
城作次郎(西)と口論し、殿
市長は福島より歸宅、十九
日箕輪大利校及び箕輪校
に開く「縣政開く」の會に出
席する

十八日午前十一時蓮沼會議
長は石城郡下車、翌日セメ
トロードにて開催された「縣
政開く」の會に出席する
る座談會と話す

以上に件案申事務所建築案
は請負に關する問題だけに
組合改組「組合金庫法案」の内
容研究の件は請負に關する問題だけに相
當議論すると見られて居る
る組合金庫法案の内容研究の件

以上に件案申事務所

